



NPO法人
ヒマラヤ保全協会

IHC-JAPAN: The Institute for
Himalayan Conservation Japan

ネパール・ヒマラヤと日本をつなぐ会報誌「シャングリラ」

Shangri-la

シャングリラ



100円でヒマラヤに1本の を植えよう!

One coin One tree on Himalayan, tomorrow will be in your hands.

現 地 報 告

理事
カメラマン
稲田 喬晃

2025 年 5 月ネパール出張活動報告

◇ポカラ出張概要

昨年、2024 年 6 月にヒマラヤ保全協会 50 周年記念事業として始まったサクラ・プロジェクト第 1 弾で、日本から輸送し植樹したサクラ苗木の現地確認および補植管理をするためにネパール・ポカラを訪問しました。現地で実際に苗木の生育状況調査、管理状況の確認、補植作業、新規植樹の準備を実施できました。近年の世界的な異常気象はネパールにも影響しており、現地関係者からは近年の気温上昇や雨季の降雨量の減少など、気候の不安定化が苗木の育成にも影響を与えている可能性があると感じました。実際に訪れた 5 月でも真夏のような暑さと日差しの強さのため日中の作業も困難、水分補給をしながら熱中症に気をつけて作業を行いました。



サクラ・プロジェクト第 1 弾



日本から苗木をネパールへ



50 周年記念植樹祭 (2024 年 6 月)

◇調査結果

【バシュンドラ公園】メインロードのサクラは 4 本がすべて健在で生育状況も良好でした。既成ゲージ内のハナモモは 5 本中 2 本が健在、2 本抜失、1 本枯死、補植など対策が必要な状況でした。街路沿いのサクラは 10 本中 8 本が健在、2 本枯死、道沿いで土壌や人的環境に懸念があったのですが、意外と生育状況はよく、予想以上にポカラの環境に適応していました。牛や人的被害も回避されていました。現地協力者のホムさんをはじめローカルの人たちにも認知されているということで、桜も大切に保守されているようです。湖畔工事の関係で、植樹祭の後に現地の人たちによって植えられた湖畔沿いの苗木は、12 本中 8 本が健在、4 本枯死。現地のホテルやレストランなどの協力によって牛除けの鉄ゲージが提供設置されていました。

【駒ヶ根公園】サクラ植樹地は 22 本中、17 本が健在、2 本枯死、3 本抜失、牛よけ木製ゲージ破損多数でした。また 1 本が開花を確認でき象徴的成果として感動的な瞬間でした。公園に植樹した苗木全体の約 3/4 が健在しており、全滅や家畜人的被害の懸念に比して良好な結果となりました。ただし、牛よけ木製ゲージの破損および苗木消失の事例が複数確認され、管理体制の強化が急務であり、市役所や地域コミュニティによるコミットメントが必要と感じられました。サクラの定着には土壌気候の影響も大きく、長期的かつ計画的なフォローアップが必要です。



バシュンドラ公園に植樹したサクラ



葉の緑の輝きが嬉しい



開花したサクラに感動



枯れているようでもまだ生きている



湖畔でお花見ができる日を夢見て



改修され綺麗になった公園の湖畔



駒ヶ根公園の植樹地



破壊された木製ゲージ



街路沿いの苗木も無事でした



湖畔でリペアする相馬会長



ホテルでの日常的な灌水で良好に生育

◇新規の植栽活動

バシュンドラ公園のハナモモの補植作業として、ゲージ内を草刈り剪定し、ポカラで購入できたプラムの苗木を5本新規植樹しました。またメインロード沿いにもプラム5本を新規植樹しました。将来的に接木の可能性があり、また花付きもサクラに似ているので、今後接ぎ木などで増やしていく予定です。また在来種のヒマラヤザクラやリンゴなどの現地調達も思案中です。実際にポカラの苗木店を巡って探しましたがなかなか見つからず、カトマンズやその他の地域で調達できないか調査中です。実際に日本から苗木を運搬する方法と、現地のヒマラヤザクラを増やす方法を並行して進めていければ、さらに多くのサクラをヒマラヤ中に咲かせることができるはずです。長期的にはヒマラヤザクラ×日本のサクラの接木によるハイブリット育成も視野に入れ、苗木調達のための資金や人材をさらに多く集めることも必要な課題です。ホームページでの周知活動やクラウドファンディングなどを活用する必要があるかもしれません。

バシュンドラ公園内の来年の植樹予定地である IHC サクラロード（仮称）における事前整備として、植栽用のピットを44カ所掘削しました。現地の若者2名に協力してもらい無事に整備完了。プラムの植樹作業も指導し、今後も活躍できる人材になってくれることを期待しています。



ハナモモの補植として、ネパールで手に入れたプラムの苗木を植えました



植樹作業中のジャナック氏と相馬会長



若者に植樹の仕方を指導する



ネパールで手に入れた貴重な苗木



昨年植えたハナモモ（2024年6月）



公園内の IHC サクラロード（仮称）予定



来年の植樹予定地に穴を掘りました

◇ヒマラヤザクラの実生苗育成

今回の渡航では、事業地のヒマラヤザクラの種子を採取し、サリジャとポカラのナーサリーにてサクラの実生苗の育苗実験をしてきました。サリジャ村で山道を歩いている時に、ヒマラヤザクラの種子を発見し、約 300 個程度を採取してポカラに戻り、プランターに種播きしました。実際には手間がかかり、うまくいくかは未知数ですが、やってみる価値は十分にありそうです。

また剪定した際に出たサクラの枝を用いた挿し穂も試行してみました。こちらはさらに成功率は低いとされていますが、将来的な可能性を考えると意味がありそうです。サクラの実生や挿し木について、もし詳しくご存知の方がいらっしゃいましたらご教示いただけると幸いです。



サリジャ村で採取した種子



プランターにポットをセットして



一つ一つ丁寧に種播していく



剪定した桜の枝で挿し穂



成功率が低いと言うが果たして



試行錯誤の繰り返し

◇今後の展望

このサクラプロジェクトで、ヒマラヤに更なる植樹を重ねていき、将来的には日本のサクラとネパールのサクラがヒマラヤの様々な地域で花を咲かせ、サクラ街道となり、人々に幸せな彩りを届けたいと思います。またそれを私自身が見届けたいと思っています。まずはポカラの公園での日本のサクラの定着を地域の方々と協力しながら進めていきます。実際に苗木を自分の手で日本から運び、土に穴を掘り、植樹し、管理するという貴重な経験を通して、植物の繊細さを体感痛感しさらに愛おしく思えました。特にサクラはとても繊細な樹種であるため、長期的継続的なご支援が重要となります。引き続きのお力添えをお願いできれば幸いです。立派に育ったサクラの下でお花見ができる日を夢見て活動を継続していきます。



日本からの苗木輸送成田空港植物検疫
(2024 年 6 月)



ポカラに無事到着、苗木の無事を確認
(2024 年 6 月)



サクラ・プロジェクトの第一歩
(2024 年 6 月)

現 地 報 告

理事
高橋 輝行

サリジャ村・パウダル村訪問記録

はじめまして。2025 年度新任理事の高橋輝行と申します。今年度より当会の運営に携わらせていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、理事任命に先立ちまして、5月上旬に相馬会長・稲田理事とともにサリジャ村とパウダル村を訪問して参りました。雨季直前の活動しやすい時期でもあり、短期間ながらも収穫の多い訪問となりましたので、下記のとおりご報告させていただきます。

1. サリジャ村訪問

ポカラで車をチャーターし、約5時間でサリジャ村に到着しました。道中は比較的舗装された道が多く、概ねスムーズに移動することができました。今回の主な目的は日本のサクラ苗を活動地の村に贈呈することでした。昨年からのポカラのIHCナースリーで管理してきた苗木の一部をサリジャ村に運び、無事にお渡しすることができました。

あわせて、挿し木用の日本のサクラ苗を生産する体制を整えてきました。村のナースリー管理人であるシャカムニさんのご協力のもと、ナースリー施設を整備し、挿し木用の日本のサクラ苗の移植を実施しました。周辺にはヒマラヤザクラが多く自生しており、日本のサクラの生育にも適した環境が期待されます。

また、村内で落実したヒマラヤザクラの種子を多数採集することができたため、それらを試験的にナースリーに植えることにしました。順調に育てば、日本のサクラを接木する際の台木として活用できますので、無事に発芽することを期待したいと思います。その後のサクラたちのケアをシャカムニ氏にお願いし、我々はサリジャ村を後にしてパウダル村へ向かいました。

2. パウダル村訪問

当初はサリジャ村からパウダル村まで車で移動を計画していましたが、途中の急坂でチャーターした車輛のパワーが足りず、急遽徒歩での移動となりました。日本のサクラ苗に加え、チーズ工房向けの備品一式（液体温度計、吊りはかり、エプロン等）を携行していたため、約3時間、機材を担いで山道を登り、無事に到着しました。



贈呈したサクラ苗木



ナースリーの整備



挿し枝用苗木の移植



サクラ苗木の輸送



植樹地の整備



チーズ工房への寄贈

パウダル村ではサクラ苗の植樹を行ったほか、チーズ工房に備品を贈呈しました。早朝から工房の皆さんがチーズづくりに取り組む様子を見学させていただきましたが、今回寄贈した備品が、少しでも作業の助けになることを願っています。

さらに、工房に隣接する小学校敷地内の空き地を整備し、サクラ苗を植樹しました。苗木が花を咲かせるようになるまでには年月を要しますが、将来、村の子供たちにも日本のサクラに親しんでもらえる日が来ることを願っています。

対外発信報告

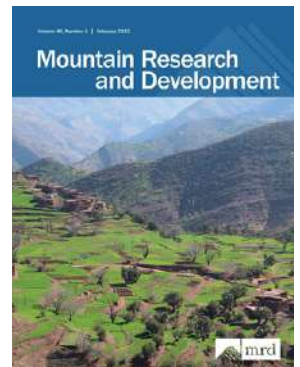
1. 国際学術論文の掲載

本会の JICA 草の根技術協力事業「生活林づくりを通じた山村復興支援プロジェクト」の効果について、相馬会長・高橋理事が共同で検証した論文が、国際学術雑誌 Mountain Research and Development に掲載されました。誰でも無料でアクセス可能ですので、以下のリンクより是非ご覧ください。

(論文)

Local Ecological Knowledge, Reforestation, and Vegetation Recovery: A Remote Sensing Based Assessment in Gandaki Province, Nepal. Mountain Research and Development, 45(1):D14-D24 (2025).

<https://bioone.org/journals/mountain-research-and-development/volume-45/issue-1/mrd.2024.00015/Local-Ecological-Knowledge-Reforestation-and-Vegetation-Recovery--A-Remote/10.1659/mrd.2024.00015.full>



また、本論文は学術出版社 BioOne の特集「BioOne Vista」の 2025 年 8 月号コレクションに選定されました。これにより、本会の活動成果が世界の環境科学・生態学分野の研究者に広く届くことが期待されます。コレクションは以下のリンクからご覧になれます。

(特集)

https://bioone.org/vista-asian-ecology-environment?utm_source=archive&utm_medium=website&utm_campaign=vista

2. Mongabay での取材記事

上記の論文および本会の活動内容について、相馬会長・高橋理事が Mongabay の取材を受けました。Mongabay はアメリカに拠点を置く非営利のニュースメディアで、環境保全分野を中心に調査報道を提供しています。相馬会長・高橋理事がコメントを寄せておりますので、以下のリンクよりぜひご覧ください。

(記事)

Nepal sees positive outcome from reforestation project using local knowledge. Mongabay 8th July 2025.

<https://news.mongabay.com/2025/07/nepal-sees-positive-outcome-from-reforestation-project-using-local-knowledge/>



現 地 報 告

IHC 会長
相馬 拓也

ムスタン・エコミュージアム再生プロジェクト始まります！

◇ムスタン・エコミュージアム訪問

ヒマラヤ保全協会はジョムソム村の中心地に 1994 年、国際ロータリークラブと共同で《ムスタン・エコミュージアム》を開設しました。本会の創設者・川喜多二郎先生が率先して計画立案し、ムスタン王国への外国人の入境が解禁となった 1991 年 10 月に計画が始動し、1994 年 2 月 13 日に開館の運びとなりました。当時の名称は「ジョムソム地域開発センター」であり、地域の文化や伝統を保存し、薬草や資源利用のための拠点として運用が始まりました（図 1）。

当時 IHC と国際ロータリークラブの合資で、総額約 2,000 万円をかけて建設され、建物は 3 階建ての石造りで、ムスタン地域ではもっとも堅牢で近代的な建築物でもありました（図 2）。建設当初は 2 階部分がチベット仏教の寺院となっており、ラマが毎朝通院して読経なども行われていました。また 50 名程度を収容できるコンファレンスホールも併設されていました。同ミュージアムを地域文化振興の拠点にしようという、川喜多先生の熱意と慧眼が伝わってくるようです。しかし、2015 年 4 月のネパール大地震 2015 によって 2 階部分は全壊し、薬草栽培のナーサリーなども大きな被害を受けてしまいました。現在は屋根を復旧させほぼ平屋となってしまいました。

今回の訪問では、内装や展示品のアップデートや、設備面の拡充など、多数の課題が見つかりました（図 3～6）。同館は現在、11 名の地元の女性たち（全員お母さん！）によって整備・運営されています。われわらの訪問を聞くと、忙しい家事のかたわら全員集合で歓迎いただきました！（図 7）ついでに、サクラの苗木も贈呈し、来年は敷地内に植栽しようと覆います。

今後直近の課題としては、2,500 冊にも上る日英ネパール語の貴重な書籍の蔵書の管理と書棚の導入、閲覧スペースの確保、薬草資料のデジタルデータベース化、薬草栽培ナーサリーや、敷地内の植栽樹の整備など、課題山積です。別途、「ムスタン・エコミュージアム再生計画」を立案し、予算や人員の確保を図りたいと思います！



図 1



図 2



図 3



図 4



図 5

図 1 開館当時のムスタン・エコミュージアム

図 2 開館日に押し寄せた村人

図 3 良くも悪くも、開館当時のまの展示品

図 4 約 2,500 冊におよぶ蔵書が活用されていない。貴重な洋書やチベット語文献もある。

図 5 およそ 1 万点程度はある在来薬草の標本。採取した GPS 地点などの詳細もある貴重資料。



図 6a



図 6b



図 7

図 6 葉草の栽培実験に用いられていた苗畑ナースリー。自身で屋根が崩落してしまっている。

図 7 博物館の管理を任されているお母さんたち。日本から持っていたサクラの苗木も贈呈。

ジョムソム街道を行く

◇ツクチェ村と利賀村の友好博物館と寺院訪問

ツクチェ村はジョムソム街道にある小さな町です。じつはこの村、富山県の利賀（とが）村（現・南砺市利賀村）と、いまから 30 年近く前に姉妹都市の友好調印を結んでいるんです。双方がソバ（蕎麦）にご縁があるという共通点から、信州大学の「そば博士」だった氏原暉男先生（1934～2013）が仲立ちして実現したとのことでした。

村の中心の街道沿いには、両村の紹介を展示した小さな博物館もあります（内部の展示はかなり年代物！）（図 1）。また、村内には、両村の友好関係を記念した寺院があり、日本から持ち込まれた桜の木も植えられています（図 2）。今回は、村長スレシュ・タカリさん（日本語ぺらぺら！）たちとともに、サクラの剪定や水やり、サクラ苗生産のためのサーサリー設置の打診などを行ってきました。



図 1



図 2

図 1 村の中心にあるツクチェ村・利賀村友好博物館
図 2 村内にあるツクチェ村・利賀村友好寺院

◇ムスタンの特産品アップルブランデー“ツクチェ”蒸留所

ツクチェ村には、ムスタン名産のアップルブランデー“ツクチェ”（図 1）の蒸留所があります。ムスタン伝統の建築様式は築 200 年を超えており、3 階建ての趣のある建物を蒸留所に利用しています（図 2）。建物に入ると、リンゴの発酵した良い香りが！蒸留施設は 1 階にあり、ここでツクチェ・ブランデーを購入することもできます。

同館 2 階にはチベット仏教の仏壇や読経部屋があり、川口慧海もマルファ村での滞在前にツクチェ村の同館で数週間滞在し、瞑想や読経に精進していたのだとか（図 3）。ジョムソム街道を旅する際は、必見ですので、ぜひどうぞ！



図 1



図 2



図 3

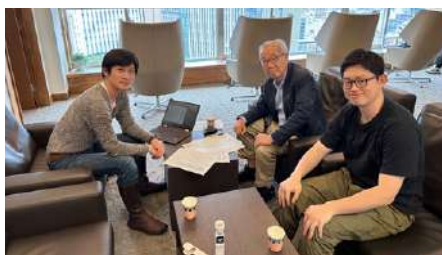
図 1 ムスタンの名産品アップル・ブランデーの“Tukche”

図 2 Tukche ブランデーの蒸留所。建物は築 200 年を超える伝統建築。

図 3 同館 2 階部分の仏壇。川口慧海が滞在していたとされている。

総 会 報 告

2025 年度全員総会は、5 月 31 日（日）早稲田大学交友サロンにて開催されました。相馬会長、稲田理事、栗田理事、高橋理事が会場出席しました。全員総会は成立し、議案はすべて承認されました。皆様、ありがとうございました。



（以下、概要）
総会議案書の詳細は、
IHC ウェブサイト [<https://ihc-japan.org/project>] をご参照ください

ヒマラヤ保全協会 2025 年度 全員総会 議案書

第 1 号議案 2024 年度事業に関する事項〔事業報告〕

1. 現地での植林・生活林再生事業
 - 1.1. サクラ・プロジェクト第 1 弾での桜苗木（100 本）の輸送
 - 1.2. サリジャ村のナーサリー管理と、リンゴ栽培候補地の開墾
2. 果樹栽培アグロフォレストリー事業
 - 2.1. バランジャ村でのレモン果樹栽培（500 株／6800㎡）の継続
 - 2.2. 日本国内事業の活動報告
3. 国際交流およびアウトリーチ推進事業
 - 3.1. 企業訪問・IHC 特任研究員制度の開始

第 2 号議案 2024 年度決算に関する事項〔決算報告〕

11 ページ「2024 年度予算実績対比表および 2025 年度予算案」を参照してください。

第 3 号議案 2025 年度事業計画

1. ネパール現地での事業・活動計画
 - 1.1. 植林・生活林再生プロジェクト
IHC とゆかりの深いサリジャ村とシーカ谷でのフォローアップをすすめます。とくに、「サリジャ機織り工房」と「ロクタ紙漉き工房」を、事業再興に向けて設備面などで支援します。
 - 1.2. 果樹栽培によるアグロフォレストリー
 - ❖ バランジャ村のキウイとレモンの栽培試験区の整備。
 - ❖ サリジャ村などで IHC 協力農家への果樹苗（リンゴ、レモンなど）の提供・栽培実験。
 - 1.3. ポカラ・ナーサリーの運用と栽培実験の継続
 - 1.4. 事業完了地のフォローアップ事業
 - ❖ ムスタン・エコミュージアムの再生・復興支援、パウダル村のチーズ工房の支援
 - 1.5. 広域ヒマラヤ地域（ネパール／タジキスタン／キルギスなど）の事業・調査研究
 - ❖ ヒマラヤの農山村の生活誌やエスノグラフィ研究の実施、ヒマラヤ～天山山脈～シルクロード諸国での自然科学・人文社会科学のフィールド調査の実施。

第 4 号議案 2025 年度予算案

11 ページ「2024 年度予算実績対比表および 2025 年度予算案」を参照してください。

「2024 年度予算実績対比表および 2025 年度予算案」

2024年度 2024 年 4 月 1 日 ～ 2025 年 3 月 31 日
 2025年度 2025 年 4 月 1 日 ～ 2026 年 3 月 31 日

科 目	2024年度予算	2024年度決算	2025年度予算
前期末残高	4,816,897	4,816,897	4,854,141
I 経常収益			
1. 受取会費			
個人会員会費	50,000	55,000	50,000
団体会員会費	60,000	30,000	30,000
2. 受取寄付金			
受取寄付金	1,000,000	1,078,000	1,000,000
3. 受取助成金等			
受取助成金	300,000	339,500	300,000
受取補助金	0	0	0
4. 事業収益			
自主事業収益	0	0	0
5. その他収益			
受取利息	0	903	1,000
為替差益	0	0	0
雑収益	0		0
経常収益計	1,410,000	1,503,403	1,381,000
II 経常費用			
1. 人件費			
給料手当	0	0	0
福利厚生費	0	0	0
2. その他経費			
現地活動・評価費	1,000,000	583,913	600,000
売上原価	0		0
旅費交通費	600,000	714,200	600,000
業務委託費	0	0	0
保険料	0	0	0
広報費	200,000	128,690	150,000
通信運搬費	50,000	14,055	50,000
消耗品費	5,000	0	5,000
事務用品費	30,000	5,041	10,000
図書資料費	0	0	0
諸会費	5,000	0	5,000
会議費	40,000	14,100	20,000
開発費	0	0	0
研修費	0	0	0
交際費	0	0	0
租税公課	0	0	0
支払手数料	5,000	6,160	5,000
水道光熱費	0	0	0
地代家賃	0	0	0
貸借料	0	0	0
為替差損	0	0	0
雑費	30,000	0	20,000
経常費用計	1,965,000	1,466,159	1,465,000
当期収支差額	△ 555,000	37,244	△ 84,000
当期末残高	4,261,897	4,854,141	4,770,141

事

務

局

だより

ヒマラヤ写真便り

撮影 稲田 喬晃

今春、1年ぶりに現地を訪れることができ、サクラ・プロジェクトで、ポカラのレイクサイド、駒ヶ根友好公園とバシュンドラ公園に植樹した桜の無事を確認し、またさらに昔からの活動地であるパウダル村とサリジャ村にも桜苗木を運び、記念植樹することができました。ありがとうございました。桜の生育管理には長期的継続的なご支援が今後も重要となります。引き続きのお力添えをお願いできれば幸いです。

(表紙写真：パウダル村の子供たちの明るい笑顔)



寄付で支援する

100円で1本の木がヒマラヤに植えられます。

1口3,000円から何口でも結構です。

右記の振込み先にご送金ください。

■ みずほ銀行新宿南口支店

普通 2005209

NPO 法人 ヒマラヤ保全協会

マンスリーサポーターになる

毎月1,000円からマンスリーサポーターになることができます。

マンスリーサポーターの皆様には、「活動報告書 & 計画書」年1回)をお送りします。

■ 郵便振替

00100-0-709154

※銀行振込みをご利用いただいた場合は、ご氏名（ふりがな）とご住所を、e-mailにてご連絡ください。

会員になる

年会費：個人会員 5,000円・団体会員 30,000円

会員の皆様には、現地の活動が盛りだくさんの会報『シャングリラ (Shangri-la)』をお届けします。

詳しくは、NPO 法人ヒマラヤ保全協会のホームページをご覧ください。

100円で1本の木をヒマラヤに植えよう！ ご支援お待ちしております！

シャングリラ第117号 2025年9月1日発行 編集・発行 NPO 法人 ヒマラヤ保全協会

TEL: 080-3570-8458

e-mail: ihcjpn@yahoo.co.jp

ホームページ: <http://www.ihc-japan.org>